

2023年12月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回2024年1月のてがたんは1月13日(土)で、テーマは「冬を生き抜く！」です。ぜひご参加ください。1月5日(金)の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は1月7日(日)です。

## 12月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場→旧水生植物園→市民農園前→旧水生植物園
- 観察日時と天気：2023年12月9日(土) 10:00~12:00 晴
- 参加人数：10名(大人8名、中学生以下2名)
- 市民スタッフ：6名(石原直子・伊東茂子・北村章子・小泉伸夫・弘實さと子・湯瀬一栄)
- 博物館友の会：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(小田谷嘉弥)

## 観察した生き物の記録

【\*】は、下見だけで見られたもの。

### 【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：クイナ、ヒクイナ(声)、バン、オオバン/シギ科：タシギ/カモメ科：ユリカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/タカ科：トビ/カワセミ科：カワセミ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声)/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ(声)/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ、ジョウビタキ\*/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ(声)、シメ/ホオジロ科：ホオジロ(声)、アオジ(声)、オオジュリン  
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

### 【昆虫】

チョウ目：ウラナミシジミ、ルリシジミ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、ヤマトシジミ/トンボ目：アキアカネ/バッタ目：コバネイナゴ、タンボコオロギ、マダラスズ、キンヒバリ/カマキリ目：オオカマキリ/ハチ目：ニホンミツバチ、オオスズメバチ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、キマダラカメムシ/コウチュウ目：ナナホシテントウ、ナミテントウ

### 【そのほかの無脊椎動物】

ジョロウグモ(クモ目)、ミミズの仲間(貧毛綱、モズによる捕食)\*

### 【花・実】

草の花 アブラナ科：ナズナ、イヌナズナ、コイヌガラシ/キク科：オオジシバリ、コセンダングサ、ヒメジョオン、ハルノノゲシ、ハキダメギク、セイタカアワダチソウ、チチコグサ、セイヨウタンポポ/シソ科：ホトケノザ/タデ科：ギシギシ、イヌタデ/カタバミ科：カタバミ/オオバコ科：オオイヌノフグリ  
木の花 ウコギ科：ヤツデ/クスノキ科：シロダモ/ツバキ科：サザンカの仲間  
草の実 ウリ科：カラスウリ  
木の実 モクセイ科：トウネズミモチ/クスノキ科：シロダモ/アサ科：エノキ/バラ科：トキワサンザシ

# 12月の観察アルバム



今回のテーマは「もっと知りたいカワウ」でした。カワウの大きな群れは見られませんが、羽を広げて休息している様子や上空を飛ぶ生殖羽になった個体などを観察することができました。そのほかにも、鳥を中心に冬のがたんコースらしい生きものたちを観察することができました。



今月の案内人  
小田谷嘉弥



① 沼の中の流木に止まって休んでいたカワウ



② ニセアカシアの根元に巣を作っていたニホンミツバチ



③ エノキの実を食べていたシメ



④ 刈り取られた田んぼで採食していたタシギ



## 歩いたルートと観察した生き物



⑤ 死んでいると思ったら生きていたオオカマキリの産卵後の雌



⑥ 手賀沼では珍しくなったハシビロガモ



⑦ マガモとカルガモの交雑個体の雄



⑧ 大きな魚の死体を食べていたオオバン

## 今月の鳥 カワウ (カツオドリ目ウ科)

カワウは全身黒色の大型の水鳥です。足のみずかきを使って水中に潜り、魚や甲殻類などを捕らえます。ウの仲間は水になじみやすい羽毛を持つことから、水中で素早く移動できる優れたハンターです。数十羽の大きな群れで魚を追っている様子もしばしば見られます。現在では、全国的に普通に見られるカワウですが、1960-70年代には農薬の使用の影響で個体数が減少しました。その後、個体数は回復しましたが、漁業との軋轢が各地で問題になっています。手賀沼では繁殖はしていませんが、近隣のコロニーから飛来した個体が見られます。関東地方では冬から春に繁殖するものが多く、秋から生殖羽になっている個体が見られます。注目されることの少ないカワウですが、彼らの興味深い生態に着目して観察してみてください。



アメリカナマズを捕らえたカワウ